

グリベック（イマチニブ）錠について

1. 使用する薬剤と用法

グリベック錠は、「分子標的薬」と呼ばれるお薬です。がん細胞だけが持つ特徴が解明され、それを標的とすることで従来の抗がん剤にくらべ、正常な細胞よりがん細胞へ効果的に作用します。

1回4錠を1日1回食後に服用します。

- 血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。
- 副作用の出現状況や体調に応じて、**減量や休薬することがあります。**

グリベック錠



2. 服用するときの注意点



- ① ご自身の判断で、用法用量を変更しないでください。
- ② グリベックを他の薬剤や健康食品と一緒に服用するとグリベックの効果に影響がでる可能性があります。他の病院で処方されている薬剤や服用中の市販薬、健康食品（例：セイヨウオトギリソウを含むもの）などを服用している場合や新たに服用する場合は、医師、あるいは薬剤師にグリベックを服用していることを伝え、一緒に服用してよいかどうか確認してください。
- ③ 飲み忘れた場合は、次の服用時間を待って1回分服用してください。**一度に2回分を服用しないでください。**



3. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「**自分でわかる症状**」と「**血液検査などでわかる症状**」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」





副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 	症状の予防や軽減のために食後に多めの水かぬるま湯で服用してください。 症状に応じて吐き気止めを使用します。
下痢 	普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛が続いたり、下痢の回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 症状に応じて、下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。
筋痙攣・筋肉痛 骨痛・関節痛	症状には、痛み止め（内服薬、坐薬、貼り薬）やで対応します。 痙攣に対してはカルシウムやマグネシウムのサプリメントが有効な場合があります。症状出現時は申し出てください。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
浮腫	<p>顔や体がむくみます。</p> <p>体重が急激に増加することがあるので、日ごろから体重の変化に気をつけてください。</p> <p>症状に応じて、利尿剤やステロイド剤を使用します。</p>
皮膚障害	<p>発疹、乾燥肌、落屑など。</p> <p>おもに上半身（顔や頭皮を含む）に現れます。</p> <p>症状の程度によって、休薬や抗アレルギー剤、ステロイドの外用剤を使用します。</p>
間質性肺炎	<p>かぜの様な症状（息切れ、呼吸がしにくい、咳、発熱など）</p> <p>症状が現れたり、ひどくなったりした場合は、すみやかに主治医に連絡して医療機関を受診してください。</p>
過敏症 	<p>発疹、発赤、咳、発熱、悪寒、呼吸苦、浮腫など</p> <p>薬剤や食物などのアレルギーは必ず申し出てください。</p> <p>少しでもおかしいと感じたときはすぐに申し出てください。</p> <p>症状出現時は、抗アレルギー剤、ステロイド剤を使用します。</p> <p>まれに投与後に症状が出現することがあります。</p>
疲労感・倦怠感・発熱	<p>無理をせず、十分な休息とるようにしてください。</p> <p>肝機能の状態が影響して症状が出現する事があります。</p> <p>発熱の症状に応じて解熱剤を使います。</p> 

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に手洗い、うがいを行う。 ・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。 ・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。 <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。 ・減少の程度では、輸血することがあります。
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください ・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください ・減少の程度に応じて輸血することがあります
<p>腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。

